

世界の牛肉トレンド 貿易量が増加、価格も上昇～BPEX～

昨年は、豪産、ブラジル産牛肉の供給が増したことで、牛肉貿易も拡大、今年も需要増で価格高となりそうだ。

キイ・ファクターは米産牛肉の供給減。このため、米産牛肉価格が上昇し、他の供給国の価格競争力が高まった。

2015年は豪産牛肉生産減などで輸出用の供給が不足し、牛肉価格も高値で推移すると見られている。

2014年、世界の牛肉貿易は量で7%増。ここ数年、増加が継続している。

輸出トップ3、豪州、ブラジル、米のデータに基づくと、輸出価格は8%上昇した。2014年末までの世界の牛肉輸出価格はト/当たり約6千ドル（1USD=115円換算で69万円）まで上昇した。2011年から2013年は平均して5千ドル（57万5千円）だった。価格の高騰は需要に輸出が追いつかなかったことを示している。しかし、2014年末から1月かけて価格は下落。

昨年の価格上昇の要因のひとつは、輸出先の変更。特に豪産牛肉は利益が上がる米へと向けられた。米では生体価格が上がり、同時に輸入価格も上昇。ドル建てで前年比16%高に。米の輸出価格も16%高となった。

2011年比で2014年末の世界の輸出価格はト/当たり2千ドル（23万円）高。

ドル高で、米産牛肉は輸出市場で価格競争力を失い、豪産、ブラジル産は通貨安で恩恵を受けたことになる。

2014年、米の輸入需要と輸出用の供給は、牛肉生産減と豚流行性下痢（PED）発生での豚肉供給減からの影響を受けた。このため、国内需要を満たせなかった。

豪ドル安もあり、豪産牛肉の対米輸出は87%増。米産牛肉不足し、豪州では干ばつで牛肉の生産が急増。今後は豪州での状況がさらに難しいものとなるかもしれない。

2013年、ブラジル産牛肉の輸出は13%増だったが、2014年はわずかに4%増。2014年、国内需要は前年より後退しており、リアルも下落した。

一方、EUの輸出価格は世界の価格をかなり下回っていた。2014年末の価格はト/当たり約4千ドル（46万円）で、世界の平均価格比では33%安。価格差は、主に輸出が低価格製品だったことと、ロシアの禁輸のため。

最新のMLA予測によれば、2015年は豪州は干ばつから回復し、牛肉供給がかなり不足する。国内消費が減少したとしても、牛肉輸出は20%減となる可能性があり、そうなれば2012年以降最少レベル。

今年はブラジル産牛肉の生産増も望めず、経済の悪化で国内需要も低迷、輸出用の供給は大幅増とはならない模様。

米では飼育頭数の拡大で、牛肉生産は増加する見通しとはなっておらず、2015年も牛肉は高値で推移し、豪産牛肉の供給不足で輸入は減少、輸出も縮小するとされている。

一方、需要も多少弱まる兆候がある。ロシアは牛肉の最多輸入国だが、ウクライナ問題や経済状況などにより、先行きは不透明。経済は急速に後退しており、ルーブルの急落で、輸入牛肉価格が急騰、ロシア市民に多額のコストを押し付けている。

また、ここ数か月、中国の輸入需要も減退しており、2014年第4四半期の対中輸出は30%減。輸出減の一因は、輸入価格の上昇かもしれないが。

供給不足が予測されているが、世界の牛肉貿易の見通しは、依然としてポジティブ。しかし、牛肉に対する値頃感やいつまで高い牛肉を買い続けるのか、牛肉の高値の可能性といった問題はまだ残っている。

果たして、低価格の食肉への切り替えはあるのか？これが世界中の業界にとって最大の疑問となっている。

牛肉輸出量と輸出価格の推移

